

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292700133		
法人名	株式会社 ワカバ		
事業所名	湖北台ケアガーデンワカバ		
所在地	千葉県我孫子市湖北台10-9-21		
自己評価作成日	平成23年2月17日	評価結果市町村受理日	平成23年5月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4 千葉県労働者福祉センター5階
訪問調査日	平成23年3月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設前には広場、隣には公園があり、ご利用者様との散歩では自然に触れ合い季節感を感じ、桜の季節には公園でお花見ができる夏には利用者様と庭でガーデニングをして野菜作りを行い食事材料としても使っている。庭はバリアフリーになっており歩行練習用をして手すりが設けられ歩行練習している。日々のレクリエーションでは職員が工夫した運動や知能訓練をして利用者と一緒に楽しく取り組んでいる。また月2回、地域の皆様と介護予防教室を行い予防運動を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅街の中にあるホームは採光も良く、明るく気持ちの良い居住空間になっている。自家発電装置も備えてあり、非常時には地域の避難場所にもなる機能を備えている。開設して3年目の施設であるが、「支え愛」という事業所独自の理念を明らかにしたことで、入居者、家族、職員、地域住民等みんなで支えあっていくという方向性がより明確になっている。昼食時は入居者と職員がにぎやかに会話し、活気ある雰囲気を感じられる。我孫子市からの委託事業も受けるなど、地域密着型の機能が発揮されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を掲げ毎年の年間目標と3年後の施設の変化を知るための目標作りをしている。	「支え愛」という事業所独自の理念を掲げ、入居者も家族も職員も地域の人も皆で支えあっていこうという事を明らかにした。玄関にもその理念を掲示し、皆がその理念を共有できるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議、行事、イベントでの交流をしている。また、介護相談窓口において、ご近所様からの相談もある	市の依頼により介護予防教室を開催し、近隣の高齢者と交流の機会を持っている。「介護なんでも相談室」という電話相談の窓口もあり、地域の人達の相談にのることもある。デイサービスに来ている高齢者と入居者との交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市や地域の高齢者問題、独居の高齢者や認知症行動について等、会議を通じて民生の方々と情報を共有している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では参加されている皆様の意見・助言を聴き、その問題点を改善させていくように努めている	運営推進委員会議は2ヶ月に一度開催されている。民生委員、社協職員、市役所職員、地域包括支援センターなどの参加があり、高齢者福祉のネットワークが作られている。そこで事業の報告や課題について話し合い、意見の交換をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	社会福祉協議会の見学会で施設の取り組みケアサービスについて説明させていただいている。市からも相談員が来館され利用者、職員とヒヤリングを行っている	運営推進委員会議には市の職員が参加しており、市から依頼された教室も行われている。市は事業所との連携に積極的である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	センサーマットを使用し入居者が出かけようとしているときは、一緒に散歩に行ったりを、その都度対応している。また、居室に鍵が付いているが利用者様の依頼で空き部屋になるときは施錠する場合がある	センサーマットを1階は玄関、居室ではベッドの傍に使用し、拘束をせずに入居者の安全を守るケアの工夫がされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については入浴時、身体の外傷などの確認や、心身の状態の把握にも努めて注意を払っている		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員においては学ぶ機会を持っていないが、対象者については、管理者、ケアマネが担当者との連絡、調整にあたっている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	読み合わせして十分に説明し理解を得ている。契約終了後も疑問点などがあれば再度説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見などがあればスタッフ連絡ノートを活用し、その意見、要望をミーティングで話し合い検討している	毎月送る請求書に、意見を書いてもらえる欄を設けている。管理者は家族来訪時は必ずコミュニケーションをとるように心がけている。家族の意向は朝の申し送りや、ミーティングで伝え検討している。	今後は運営推進会議にも、積極的に参加してもらえるように、家族の存在が事業所にとっても、入居者にとっても大きな存在であることを伝えていく努力を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見には耳を傾け、ケアに関しての提案は職員同士意見交換していただき統一できるケアを目指している。職員には『悩まない』環境作りを目指している	月1回は全員でミーティングを行っている。また個々の職員とは随時話しあう機会を持っている。意見等については、出来る限り運営に反映させるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状態に偽りが無いよう工夫し、職員個々にレクリエーションを担当してもらい変化をつけている。各自が向上心を持つように居室担当制にしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員に対しては毎日教育シートを使用し、振り返り事項などの記入をしている。また、2ヶ月毎に力量シートを使用し、自分の力量を把握してもらっている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所との交流では市全体の事業所分科会に参加し意見交換している		

【評価機関】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様からの要望などに耳を傾けるだけでなく、職員からも提案し、少しでも悩んでいる事を解決できるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の状況を踏まえ、ご家族の状況及び要望を確認し必要と思われるサービスとを情報提供し、家族側が安心して何でも話せる関係作りをして密に連絡を取り合い不明点を解決していくようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様がどのようなサービスを一番に求めているのかしっかりと聞き取りをし、出来る支援については協力している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、洗濯、食事の準備、後片付けなどを常にともに行い、生活協同者と思っていただけよう努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	イベントや誕生日などをご家族に知らせ、面会に来やすい機会をつくっていくよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人が来所されたときは、他の利用者やスタッフも気軽に話をできるような場所にしていつでも来やすい環境をつくっている	1ヶ月に一度、定期的に知人が訪れる人もおり、ホームとして関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人の趣味、何かを作成したり時にはスタッフのレク活動中の会話の中で思い出話や時には爆笑できること等を皆さまで笑うことを意識している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人、ご家族が孤立してしまわぬよう相談に応じ、退去しても施設との関係性を大切に、時折施設側から電話等で連絡し必要に応じて相談、支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの暮らし方を否定するような言葉使いや行動あは注意している。困難な場合は、ご家族との話し合い、連絡を取り検討している	普段の会話の中から様子を察し、希望、要望をかなえるようにしている。入居者を深く理解できるよう個別担当制を実施している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメント以外にも会話の中で、生活歴や生活環境などをお聞きし、サービスの中での参考になっている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	『気づき』を大切に記録に残し利用者1人1人の様子の変化を把握するように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議やケースカンファレンス、ミーティングでの意見交換や、Dr、Nsのお意見も取り入れ、その都度ケアプランを見直している	本人、家族、職員、医師の意見を取り入れた介護計画を作成している。また最近、入居者の状態が一目見てわかるようにと、更に詳しい介護サービス計画を作成し評価を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子の変化は、記録はもちろんのこと、スタッフ間で報告し合い、ケアマネへも報告するよう努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	変わりゆくニーズに対して、柔軟に支援やサービスを実施するよう努力しているが、出来ること、出来ないことを明確にして現在は取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方の協力や施設周囲が公園、広場と良い環境であり、散歩、広場でのイベントに積極的に参加するようにしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療にかかわる必要な情報を把握し必要であれば主治医との話の場をも設け、こまめにかかりつけ医との連絡をしている又、主治医が近隣の為、直ぐに往診していただいたり柔軟な対応ができています。	訪問診察、訪問看護は各月2回だが、緊急時は夜間も対応してくれる。訪問歯科診療は週1回行われている。希望する医療機関への通院介助は職員が行い、家族への結果報告は電話やお便りでやっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護が来所したときは利用者の健康鏡体、心身状況を説明している。また電話連絡をまめにして相談、指示を頂いている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先のケースワーカーと情報交換し、ご家族からのニーズの把握もおこなっている。また入院先にもスタッフが面会に行き、時間があれば入院先のNsに情報をいただいている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際に利用者及び家族の意見を伺い、個人の意志を尊重した終末期を迎えるようにDr、Ns、職員と連携していき、その情報を共有するようにしている	ホームとしてどこまでできるのかを契約時に説明している。職員は重度化した場合に備え研修を行い、内容は全員で共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に対応できるように研修体制と応急手当の講習をしている。今後は定期的にも行い実践力を身につけていきたいと思っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自治会が開催している防災訓練に参加しているが、避難方法についてはマニュアル以外でも災害時を想定した訓練を実施していきたい	現在、2階非常口のスロープ設置を検討している。マニュアルが整備され、避難訓練は年3回実施している。	今後はあらゆる場面を想定した訓練の実施と、さらなる地域の協力体制の構築が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報、記録の管理は徹底している。言葉使いに注意し、利用者の生活歴などをしっかりと把握してケアを行っている	接遇マナーなどの研修会を行い、実践に結びつくよう努力している。入居者に対しての言葉使いを若手職員に教育している。職場以外で仕事の話をしなない等、職業倫理について指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者と職員の間で何でも話せる関係を築き、思いや希望を聞くようにしている。職員が聞く側になり、聞いた話をケアに生かしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り起床、食事時間での利用者の意志を尊重している。集団生活の場であるが、利用者のニーズに応えられるサービスの提供に努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ヘアカットの希望などを随時募り、行っている。また入居前に利用していた美容院などにも、ご家族、ご本人と一緒に行っていただけるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が付き添い、共に行う様努めている。週に1回利用者様のリクエスト献立を作っている	献立は職員が栄養のバランスを考え作成し、食材は近隣の農産市場やスーパーで買い出しを行っている。時には外食したり出前を取ることもある。入居者と職員は会話を楽しみながら食事をしていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量はその都度チェックし、1日のトータルを割り出し、少なめのときには、申し送り、注意を促している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は口腔ケアをするように声かけて磨いていただいている。介助が必要な方には介助をし義歯の方は、こちらでお預かりし消毒を行っている。必要に応じて歯科往診時に口腔内のケアの方法を指導してもらい職員で実施している		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとりひとりの排泄パターンを把握し、声掛け、トイレ誘導を行っている	自立の入居者が多いが、一人ひとりの排泄パターンや習慣を理解して、現状維持できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事において食物繊維の多く含まれた食品や乳製品を取り入れるように工夫している。また、体操や散歩、入浴などを行うよう努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴予定の曜日は決められているが、体調や気分、外出された時などは、他曜日に入っていただくことも可能である。AM、PMともに入浴できるようになっている	曜日は決まっているが、本人の希望に沿って、夜以外はいつでも入浴可能になっている。拒否がある時は様子を見て曜日を変えたり、清拭に切り替えたり、家族の協力を依頼する事もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間不眠の訴え時には、お茶やホットミルクなどをお出しし、お話を聴くなどして対応している。また、翌日は無理のないよう申し送り、注意を促している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のセット時、内服時に誤薬がないようチェックに努めている。服薬による病状の変化については記録をし、病状をDr、Nsに報告している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花見など季節に合わせた行事を考え、外出したり、誕生会など利用者の希望を聞き、外食に出かけている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	希望された時には、散歩や買い物に出かけている。また、地区の盆踊りや餅つき大会にも参加している	日常の散歩、美容院、お墓参りなど本人の希望に沿った支援が行われている。また2か月に1回程度の割合でドライブなどの外出支援を行っている。最近では、成田山、ビール工場見学、手賀沼公園に出かけている。	

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	どこかへしまい込んだり忘れてしまう利用者も多いので、金庫で保管し、外出時はスタッフが管理、使用の際にご本人にお渡ししている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があるときに電話をかけられるようにしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や絵を飾ったり、その時々合ったイベントを行い、季節を感じていただける環境づくりをしている。トイレや浴室などはこまめにチェックし、清潔を保つよう努めている	共用空間は明るく清潔である。観葉植物、季節の手作り品が飾られる等、生活感にあふれている。ペランダにはイスとテーブル、パーベキューセットが設置され、季節の良い時に利用している。ペランダ続きの庭には歩行練習用の長い歩道があり、室内履きのまま何時でも練習することができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1階、2階フロアそれぞれに、食堂や和室などを自由に使用していただいている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたものを継続して使用していただき、安心して過ごせる部屋づくりを行っている	各居室は、ベッド、エアコン、換気扇、棚が取り付けられている。持ち込みは自由でテレビ、タンスのほか壁掛けや写真、手芸品などが置かれその人らしさが感じられる居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が洗濯物を干したり、たたんだりしやすい環境を整えている。残存能力を活かし、入浴ができるようスタッフが介助をし、浴場設備を整えてある		